

幸福の科学学園チア部中学生チーム

米国の国際大会で初V

那須 初出場高校生も部門2位

【那須】梁瀬の幸福の科学学園中高チアダンス部は、米国カリフォルニア州アーバイン市で開かれた第47回ミズダンスドリル米国際大会に出場し、2年連続出場の中学生チームが初の総合優勝を飾り、初出場の高校生チームもポン部門で準優勝した。

ダンスドリルはダンスを反復練習(ドリル)する米国発祥の教育プログラム。大会は多くの部門に分かれており、中学生チーム(25人)はジュニアハイオープン部門で出場3チーム中1位。ジュニアハイ総合部門でも14チーム中1位となり、総合優勝となった。両部門ともほかは全て米国のチームだった。

高校生チーム(19人)は、ポンポンを持って踊るポン部門で日本3、米2の計5チームで競い、5人いる審査員の1人から100点満点を得た。

ダンスドリルはダンスを反復練習(ドリル)する米国発祥の教育プログラム。大会は多くの部門に分かれており、中学生チーム(25人)はジュニアハイオープン部門で出場3チーム中1位。ジュニアハイ総合部門でも14チーム中1位となり、総合優勝となった。両部門ともほかは全て米国のチームだった。



米国の国際大会で快挙を成し遂げた幸福の科学学園中高チアダンス部

中学生チームは昨年出場した国内の学生チアダンス3大会で全て優勝。高校生チームもうち1大会で初優勝している。

中学生チームリーダー

の高校1年上村美智さん(15)は「自分と仲間を信じる力でつかんだ勝利。周囲の支えに感謝したい」とほほ笑む。中高全体の元部長の高校3年川端満月さん

(17)は「周囲の支えに優勝で応えたかったけれど、世界のレベルを体験しながら、思い描いた演技ができた」と話していた。

(手塚京治)